

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)  
A:十分達成できている C:やや不十分である  
B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖工業高等学校【定時制】
-----	-------------------

1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	・自分の可能性を信じ、主体的に積極的に取り組み、活動できる生徒の育成に対し、引き続き取り組んでいきたい。
------------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	県内唯一の工業科・普通科を併置する定時制高校として、個々の学びのニーズに応じた、きめ細かな指導を通して、広い視野を持った社会に貢献できる人材を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	ア 基本的生活習慣の確立を図る。
	① 働きながら学ぶ意欲に満ち、落ち着いた真面目に学習活動に取り組む生徒を求めます。	① 生徒個々のニーズに対応した教育課程の編成を行い、適宜、見直しや創意工夫に取り組みます。	① 働きながら学ぶ生活を通して、基本的な生活習慣の確立した生徒を育成します。		イ 学習意欲を向上させ、主体的・自主的な学習態度及び読み解く力を育てる。
	② 学校のルールを守り、社会生活の基本を身につける意欲に満ちた生徒を求めます。	② 生徒の実態に応じた教材の精選、指導の工夫・改善、能力に応じた個別最適な学び等、分かりやすい授業の実践に取り組みます。	② 生徒集団の中で、他者との触れあいを深め、思いやりのある生徒を育成します。		ウ 進路指導の充実を図る。

5 重点取組内容・成果指標 最終評価

(1)共通評価項目			最終評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○主体的に基礎学力向上に取り組む環境を整備し、取り組みを支援する。	○「計算力アップトレーニング」や各授業における基礎学力定着時間の積み重ねにより、基礎学力の向上を実感した生徒80%以上	・週に1回程度、「計算力アップトレーニング」を実施し、昇級制度により生徒の達成感を感じさせる。 ・各教科において、基礎学力定着の時間を確保する。	A	計算力アップトレーニング等の取組により、向上を実感した生徒は74%となり、中間時より15%改善した。今後も継続的な基礎学力定着と学習習慣の強化を図る。	A	・妥当な結果であると思われる。
	○主体的に資格取得に取り組む環境を整備し、取り組みを支援する。	○資格取得に主体的に取り組むことで、学習への意欲が高まった生徒80%以上 ○検定資格合格率70%以上、国家資格取得率50%以上	・専門科目の授業において、資格取得に対する動機づけを随時行う。 ・生徒のやる気に応じて、補習授業や個別指導を随時行う。	A	危険物乙4類は合格率50%であったが、その他の検定・資格は全て100%を達成した。アンケートでは意欲的に取り組めたとの回答が約10ポイント向上し、資格取得への意識が高まった。	A	・妥当な結果であると思われる。 ・「主体的な資格取得を支援する体制」は、生徒の社会的自立へ向けた準備として今後も継続してほしい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○基本的な人権の尊重を重視できるようになったと回答した生徒80%以上 ○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教員80%以上	・ホームルーム活動等において、人権・同和教育や進路保障の学習会を実施する。 ・人権・同和教育に関する講話を計画的に実施する。	A	年間2回の学習会を実施。第2回では92%が、いじめ・差別が人権侵害に繋がると理解。来年度も計画的に実施し、理解の定着を図る。	A	・妥当な結果であると思われる。 ・高校から努力を始める生徒を大切に、「ゼロスタート」の教育を継続してほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができておりと回答した教員80%以上	・いじめ対応についての職員研修を前期と後期に実施する。 ・定期的に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。	A	いじめ認知・認知1件は早期対応で関係改善。定期研修とアンケートで体制を点検し、教職員・保護者の体制整備評価は90%超を維持。	A	・妥当な結果であると思われる。
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80%以上	○「佐賀語」等を活用した授業に取り組む。 ・郷土の人材を活用した講演会を実施する。	A	卒業予定者アンケートで、佐賀への誇り・愛着を持つ生徒が大多数。今後も「佐賀語」等を継続し、肯定回答80%以上の維持・向上を図る。	A	・妥当な結果であると思われる。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○保健体育の授業や体育の行事等に積極的に取り組むことで、運動に対する重要性を実感したと回答した生徒80%以上	・体育の授業において、主体的により多くの種目に取り組むことができる環境を整備する。 ・保健の授業と体育の授業を連携させて、運動と生活習慣の関係に対する理解を深めさせる。 ・クラスマッチやスポーツフェスティバル等の学校行事を生徒主体で運営させ、地域社会の体育的行事にも積極的に参加できるように促す。	A	体育授業・行事を生徒主体で実施し、特に3~4年生の参加が活発。協働性は向上した一方、運動習慣の定着は不十分で、生涯スポーツ化が今後の課題。	A	・妥当な結果であると思われる。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ●朝食をほぼ毎日食べる生徒80%以上 ●給食をほぼ毎日食べる生徒65%以上(令和6年度は58%)	・生活状況調査、食に関する意識調査等の実施 ・保健便りの発行 ・保護者への個別の連絡 ・給食室内の配置の工夫	A	給食喫食率は配置工夫等により65%前後で安定。朝食は保健より等の取組で保護者回答が70%まで改善。引き続き80%目標の達成を図る。	A	・妥当な結果であると思われる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時通勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・管理職の積極的な休暇取得	A	年次休暇取得は平均16日超となり目標を大きく回った。休暇取得の雰囲気も定着し、計画的なリフレッシュが可能となった。時間外在校時間も平均8時間弱で適正な範囲に収まっている。	A	・妥当な結果であると思われる。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	A	発達障害等への理解を深める研修や情報共有を通して、教職員の専門性と意識向上が図れた。個別の教育支援計画の体制も整備され、担任との連携の下で適切な支援につなげることができた。	A	・妥当な結果であると思われる。 ・支援が必要な生徒が増加しており、「社会的な自立」を目指す場として定時制の役割は今後さらに重要となる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上 ★県外からの入学者数1人以上	・生徒が主体となって活動できる機会を多く設ける。 ・積極的に、中学校を訪問し、中学校現場における定時制教育への理解を深める。 ・中学生向けの見学会を随時開催する。	B	学校見学者は19名となり、中学校職員や保護者団体からの評価も高かった。保護者アンケートでは「他者に褒めたい」が80%超。今後も広報を充実させ、学校の魅力発信をさらに進める。	B	・妥当な結果であると思われる。 ・「自分のペースで学ぶことができる点」をもっとPRしてほしい。
	★将来を見通したキャリア教育の充実 ★希望進路実現のための個別最適な進路指導	★進路意識が高まったと感じる生徒80%以上 ★卒業年次生の進路実現率80%以上	・キャリア教育講演、進路講演等において、生徒の実態に応じた内容を取り入れる。 ・学級担任、科、進路指導部(全・定)で連携を図りながら、生徒一人ひとりに最適な進路指導を行う。	A	計画通りにキャリア教育を実施し、担任・教科・進路指導部が連携して個別最適な支援を行った結果、進路実現率は100%を達成。今後も進路意識向上と希望実現に向けた指導を継続する。	A	・妥当な結果であると思われる。

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎学力向上に向けた取組を継続し、生徒一人ひとりに最適な学びを提供できる指導体制の充実を図る。</li> <li>●人権・同和教育をさらに推進し、研修の充実を通して、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりをめざす。</li> <li>●保健厚生部・保健体育科を中心に、主体的な健康管理や食育の充実を進め、望ましい生活習慣の定着を支援する。</li> <li>●業務の偏りを点検しながら、働きやすい職場環境を整備し、教職員の働き方改革を継続的に推進する。</li> <li>●特別支援教育では、専門性向上と支援体制の強化を進め、多様な生徒に応じた個別最適な支援を充実させる。</li> <li>●学校の魅力や特色を全教職員で共有し、在校生・中学生・地域へ積極的に発信する取組を強化する。</li> <li>●多様な進路に対応できるキャリア教育の充実を図り、進路指導部と関係部門の連携により、希望進路実現を確かなものとする。</li> </ul>
----------------------	---